

大切なのは、
実現すること。

令和7年 秋号



「言いだしつべ」の さかい学^{まなぶ}的 活動報告

200年先を見据えた国づくり

■ 防災政策転換のチャンス

私が防災担当大臣として仕事をして感じたのは、「人員不足で、目の前の災害対応に追われ、事前防災を充分にできていない」ということでした。今回、防災庁への組織改編を機に、予算、人員も増えるので、事前防災への取り組みも今まで以上に充実します。それならば今こそ、防災対策の根本的な方針を打ち上げるべきではないか、と考えるようになりました。

■ 日本の防災政策の大きな矛盾点

防災政策を担当していて矛盾を感じるのは、人口増などにより今まで住むのを避けてきた災害リスクの高い場所に住むことにより、被災し、被災すると公金で災害対策のインフラを拡充し、復旧を行っているという構図を目の当たりにするときです。

私が松下政経塾生時代に熊本で活動をしていた頃、地元の方から「加藤清正公は治水事業を行う際、川の流れをよく見て、今で言う遊水池を作り、そこには人が住まないように“犬”という地名を付けて、後世に伝えた。しかしそうした場所は広くまとまった土地なので、今は宅地開発をされ、人が住んでいる。そして先日の大雨で浸水し、被害が出た」という話を、聞きました。

水が決壊する→堤防をかさ上げし、越流を防ぐ→下流に流れる水の総量が増える→今まで洪水の被害がなかった所に水が流れ込み、被害が及ぶ→被害を防ぐため堤防をかさ上げする…このように膨大なインフラ工事が河口まで続くのです。

この矛盾の中で最も問題視すべきは、その土地を災害リスクの高い場所だと認識せずに購

入し、被災した方がいることです。

まさにこの点を、防災庁設置という防災政策一大転機に改善させるべきではないか。災害リスクの少ない所に住むという基本的な考え方も街づくりに取り入れ、長い年月、それこそ200年をかけてでも街づくりを行なうべきです。

■ 後世へ伝えていくべき考え方

防災庁という災害対策の柱ができるわけなので、長期の政策も維持し続けることが可能になります。

まずは一つの契機として、今回、『防災白書』に「ハザードマップや災害伝承等を通じ、・・・災害リスクを的確に認識し、危険な場所に住まないなど、正しい知識・情報によって・・・災害リスクの低いライフスタイルを選択できる・・・」(p.52)との表現を初めて入れました。

また、政府の方針の取りまとめである『骨太の方針』にも、「中長期的な視点を持ち、安全な区域での居住など、人口減少も見据え災害に強い国土・地域構造への転換を進める」(p.27)と書いてもらいました。

■ 200年後を見据えた政策実現

この政策変更は目立たないですが、防災政策的一大転機になると思っています。今後、私が防災担当大臣の職を離れても、一議員としてこの政策転換を着地させるよう努力し続けます。

そして、防災政策に限らず、私は200年後の日本、そしてそこに生きる人々のために、今、必要な政策を現場の声を聞きながら実現していきます。

防災担当大臣 国家公安委員長
国土強靭化・海洋政策・領土問題等担当大臣
衆議院議員 さかい学 事務所

〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3922 戸塚ビル3階
☎ 045-863-0900 FAX 045-865-6700
メール info@sakaimanabu.com



自民党神奈川県第五選挙区(戸塚区・泉区)支部



大切なのは、実現すること。

言いだしつ、奮闘中!

大臣の仕事



大船渡の林野火災で被災された方々からヒアリング



大船渡で林野火災の被害状況を視察



全国市長会の代表と、防災に関する意見交換



防災先進国・イタリアを視察(避難所として使われる巨大テント内にて)



火山噴火予知・対策推進議連にて
あいさつ

カマル・キシヨー国連事務総長特別代表(防災担当)と会談し、2027年に行われる国連アジア太平洋防災閣僚級会議の日本招致について、仙台市で開催することで合意



ワールドオーシャンサミット(東京)にて基調講演



領土・主権展示館のオープニングセレモニーにて
あいさつ



有人国境離島鹿児島県三島村硫黄島で、「へき地診療所」を視察



洋上風力発電を視察
(北九州市)



地元の方々主催による大臣公務報告会



若者を対象にした防災ゼミで講師を務める



予定地を視察
2027 横浜国際園芸博覽会(花博)開催



オンラインカジノの規制を強化する法律成立後の記者会見

